

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月15日

協議会名: 幸手市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
中田商会株式会社	<p>コミュニティバス 「幸手市市内循環バス」 系統: 中央コース(11.6km)、東Aコース(20.6km)、東Bコース(16.8km)、西Aコース(17km)、西Bコース(12.4km) 運行回数: (中央)8便/日(東A・東B・西A・西B)4便/日 運賃: 1乗車(大人)200円 ※1日乗車券、割引運賃あり</p>	<p>「引き続き目標達成に向けての取組を」との評価を受け、増加する高齢者を中心とした市民の日常生活を支える足となる公共交通網を確保するという目的のもと、目標達成に向けて市内循環バスの利用者増を図るため、下記のとおり、継続又は新規の取組を実施した。</p> <p>①希望者へのマイ時刻表の作成 ②ナビタイムにおける市内循環バスのインターネット検索環境の提供 ③民間路線バスとの乗継円滑化を図るため、停留所相互への案内表示 ④幸手市民まつりにてバス車両の展示を実施(R4.10) ⑤1日乗車券購入者に対して、市内循環バス利用者優待制度(ハピノリ応援ショップ制度)の登録ショップで使用ができるクーポン券配布事業を実施(R4.11~R5.1) ⑥杉戸町町内巡回バスとの相互乗換の開始(R5.4~) ⑦市広報紙への記事掲載【ハピノリ応援ショップの紹介】(R5.7)</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。</p> <p>【令和5年度目標1:年間利用者数】 (目標)25,520人 (実績)25,130人</p> <p>【令和5年度目標2:利用者1人当たりの市負担額】 (目標)1,627.4円 (実績)1,657.3円</p> <p>目標には届かなかったが、前年度実績と比較すると、利用者は増加した。令和4年1月に市内循環バスの運行を開始してから市民の認知も広まり、各種取組の効果も相まって利用者数については現在も増加基調となっているため評価に値する。このまま増加基調となれば次年度は目標を達成できる見込みである。また、利用者の通院や買い物等の日常生活を支える移動手段を確保するという役割は果たすことができたと考え。</p>	<p>利用者数の増加基調の実績から、令和5年度事業で実施した周知・利用促進の取組による一定の効果があったものと考えられる。</p> <p>令和6年度事業では、更なる利用促進を図るため、令和5年12月に実施した無料乗車キャンペーン等、新たな事業について取組を行っているところである。</p> <p>ハピノリ応援ショップ事業への協力店舗の拡充も含め、引き続き利用促進につながる事業を多角的に検討・実施していきたい。</p> <p>また、市内循環バスを、より生活に身近な公共交通としていくためにも、周知・利用促進の実施に加え、アンケート等で市民ニーズの把握にも努めていきたい。</p>

## 事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月15日

協議会名：	幸手市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>増加する高齢者や、運転免許証返納により地域公共交通を利用せざる得ない人への対応が課題となる中、市内外へ移動や、買い物・通院等、市民の日常生活を支える交通手段を確保する。</p> <p>本市では平成27年10月からデマンド交通を運行してきたが、市で運行する公共交通の利便性及び効率性を高めるため、市民アンケート等を実施し、その結果を踏まえて、令和4年1月から市内循環バスの運行を開始した。</p> <p>市内循環バスの運行に当たっては、補助対象地域間幹線系統(朝日自動車五霞町役場～幸手駅線)との接続を確保し、利用者のための停留所相互の案内等、乗継を円滑化するべく利用案内を見える化することで、地域公共交通の利便性向上を図る。</p> <p>また、市内循環バスでは、デマンド交通利用者の主な目的地であった、中心市街地に点在している日常生活に必要な病院、商業施設、公共施設等を鑑み、それらを循環する路線を考慮し、東西地域からのアクセスを可能とした5系統を運行することで、多くの市民の日常生活を支える交通手段とすることを目指す。</p>

# 令和5年度 幸手市地域公共交通会議（埼玉県幸手市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

## 地域の公共交通等の現況・課題

幸手市は、国道4号を中心に市街地を構成し、商業施設については国道4号沿いに集中している。一方で居住地や公共施設は郊外にも点在している。

本市の公共交通としては、鉄道、路線バス、タクシーが挙げられ、路線バスについては、東武日光線幸手駅をはじめ、鉄道駅へと接続する路線が市内・市外を通り放射状に延びている。

増加する高齢者を中心とした市民の日常生活を支える交通手段を確保していくことが課題である。

## 交通計画の基本的な方針／定性的な目標

増加する高齢者や、運転免許証返納により地域公共交通を利用せざる得ない人への対応が課題となる中、市内外へ移動や、買い物・通院等、市民の日常生活を支える交通手段を確保する。

また、都市環境・生活環境に適応した持続可能な公共交通体系の構築を目指し、あらゆる施策を検討していく。

## 目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

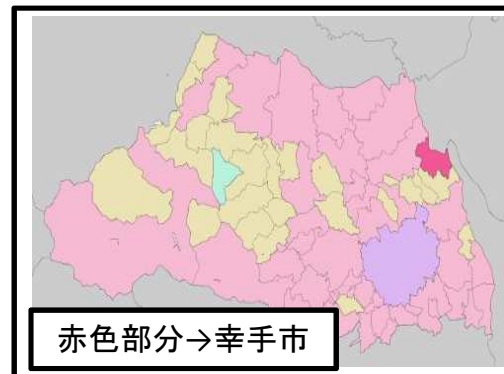
本市では増加する高齢者を中心とした市民の日常生活を支える交通手段を確保することを目的として、平成27年10月からデマンド交通を運行してきたが、市で運行する公共交通の利便性及び効率性を高めるため、市民アンケート等を実施し、その結果を踏まえて、令和4年1月から市内循環バスの運行を開始した。市内循環バスでは中心市街地に点在している日常生活に必要な病院、商業施設、公共施設等を鑑み、それらを循環する路線を考慮し、東西地域からのアクセスを可能とした5系統を運行している。

多くの市民の日常生活を支える交通手段とすることを目的し、周知・利用促進の取組を実施している。

## アピールポイント

市内循環バスの利用促進を図るため、下記の取組を実施。

- ①希望者へのマイ時刻表の作成
- ②ナビタイムにおける市内循環バスのインターネット検索環境の提供
- ③民間路線バスとの乗継円滑化を図るため、停留所相互への案内表示
- ④幸手市民まつりにてバス車両の展示を実施(R4.10)
- ⑤1日乗車券購入者に対して、市内循環バス利用者優待制度(ハピノリ応援ショップ制度)の登録ショップで使用ができるクーポン券配布事業を実施(R4.11～R5.1)
- ⑥杉戸町町内巡回バスとの相互乗換の開始(R5.4～)
- ⑦市広報紙への記事掲載【ハピノリ応援ショップの紹介】(R5.7)



赤色部分→幸手市

面積	33.93km <sup>2</sup>
人口（R5.4.1時点）	49,293人
15歳未満	4,668人
65歳以上	17,529人
高齢化率	35.6%

## 交通計画の計画期間

計画未策定  
(令和6年3月策定予定)

## 協議会開催状況

- (令和5事業年度に係るもの)
- ・令和4年度第1回(令和4年6月23日)  
R5事業年度フィーダー計画を協議
  - ・令和4年度第2回(令和4年9月26日)  
市内循環バス利用促進の取組について報告
  - ・令和4年度第3回(令和5年1月19日)  
幸手市市内循環バス・杉戸町町内巡回バスの相互乗り換えについて協議
  - ・令和5年度第5回(令和6年1月12日)  
(書面開催)  
R5フィーダー事業評価について協議